

T-790 取扱説明書

T790-z-2403

お買い上げありがとうございます。

ご使用の前に本取扱説明書をよくお読みいただき、正しくお取り扱い下さいますようお願い申し上げます。

本取扱説明書はお手元に保管して下さい。

- 印刷による制限のため、本取扱説明書中の図が実際の表示と異なる場合があります。
- 本製品によって生じた、いかなる支出・損益・その他の損失に対して何ら責任を負いません。
- 本取扱説明書を製造者の許可なく変更・複製することを禁じます。

製品仕様 (改良のため予告なく変更する場合があります。)

- 時 間 精 度：平均月差 ±30 秒以内 (気温 25℃で使用した場合)
(電波時計による時刻修正を行わない場合)
- 表 示 精 度：±1 秒以内 (電波受信による時刻修正の直後)
- 使用温度範囲：0 ~ +40℃ ※結露なきこと
(外観 / 機能に支障無く、連続使用可能な温度範囲)
- 使用推奨電池：単3形アルカリ乾電池 (LR6 1.5V) 2 個
- 電池寿命：約 12 ヶ月 (単3形アルカリ乾電池 2 個を使用し、1 日にアラームを 30 秒、自動点灯を 10 時間使用した場合)
- 電 波 受 信：40kHz/60kHz のどちらか受信しやすい電波を受信し、
現在時刻に合わせる
●自動受信 (最多 3 回 / 1 日) ●手動受信
- 時 刻 表 示：12 時間制表示、または 24 時間制表示
- カレンダー表示：2010 年 1 月 1 日 ~ 2099 年 12 月 31 日 (フルオート)
- 温 度 計：表示範囲 -9.9 ~ +50.0℃ ※-9.9℃より低いと LL、
+50℃より高いと HH、H を表示
精 度 ±1℃ (0℃ ~ +40℃の間) ±2℃ (左記以外)
- 湿 度 計：表示範囲 20 ~ 99%RH (%RH は相対湿度の単位です)
※20%RH より低いと LL、99%RH より高いと
HH を表示
精 度 ±5%RH (温度 25℃で、40 ~ 70%RH の間)
±8%RH (上記以外)
- ア ラ ム：電子音 (2 分間オートストップ)
- ス ヌ ー ズ 機 能：5 分 (8 回繰り返し可能)
- ラ イ ト 機 能
- 自 動 点 灯 機 能：光センサーにより周囲が暗くなると自動的にライトが点灯

温度湿度表示機能について

- 本製品は工業用 (業務用) 計測機器として使用する目的で製造されたものではありません。温度湿度表示機能は、センサーが本体内部に設置されているため、表示が安定するまでに時間がかかる場合があります。
- 他の製品、温度計・湿度計との誤差が発生する場合があります。
- 使用温度範囲を超えた場合、故障の原因となりますので、注意して下さい。

液晶表示について

- 液晶表示は角度により見えにくくなります。
- 温度が低くなると液晶表示の反応が遅くなることがあります。
- 0 ~ +40℃の温度範囲を超えると、液晶表示が見えにくくなる場合があります。
- 液晶表示は 5 年を過ぎるとコントラストが低下して、表示が見えにくくなる場合があります。
- 液晶表示が部分的に黒くなる場合がありますが、静電気による一時的な現象です。しばらくそのままにしておくと、元に戻ります。

リセット操作について

電池を電池ホルダから外した直後は、静電気や内部に残っている電流により、誤動作 (誤表示) する場合があります。電池を入れる前に、必ず**RESET ボタン**を押して下さい。

※**RESET ボタン**は、先の細い尖っていない棒などで押して下さい。針などの先端の鋭利なものを使用すると、ボタンが破損しますのでご注意ください。

電池の交換について

- 電池容量が不足してくると、液晶表示が薄くなります。このような場合は、速やかに同じ種類の新しい電池に2個同時に交換して下さい。
- ※買い置き電池を使用した場合、乾電池に示されている「使用推奨期限」や保管状態により電池寿命が短くなることがあります。

電波時計について

電波時計とは
標準電波を受信して自動で時刻を修正する機能を持つ時計です。
※電波を受信できない場合は、内蔵クォーツの精度で計時します。

標準電波とは
情報通信研究機構 (NICT) が運用している時刻情報をのせた電波です。標準電波送信所は、福島県の「福島局: おおたかどや山標準電波送信所」と、佐賀県と福岡県の県境にある「九州局: はがね山標準電波送信所」の国内 2 か所にあります。
※標準電波の時刻情報は、およそ 10 万年に 1 秒の誤差という精度の「セシウム原子時計」によるものです。

標準電波の送信停止について

標準電波は毎時 15 分と 45 分から各 1 分間は一部の時刻情報の送信が中断されます。また、送信所の定期点検や落雷などの影響により停波 (送信停止) することがあります。標準電波の送信状態については「情報通信研究機構」のホームページをご覧ください。

日本国外でのご使用について

本製品は、日本の標準電波以外は受信できません。海外で使用した場合、ご使用になる場所の条件により日本の標準電波を受信したり、ノイズにより誤った日時を表示する場合があります。あらかじめご了承ください。

電波の受信範囲について

送信所からおおむね半径 1000 km とされています。

※電波を受信できない場合は、
内蔵クォーツの精度で計時します。



電波を受信しにくい環境

次のような場所では受信できない場合や誤った時刻を表示することがあります。

- 工事現場、空港の近く、交通量の多い場所など電波障害の起きやすいところ
- ビルの中、ビルの谷間、山など電波を遮るものの近く
- 鉄筋、鉄骨の建物の中や地下
- 金属製の雨戸やブラインドの近く
- 高圧送電線、ラジオやテレビの送信所の近く
- 自動車、電車、飛行機などの中
- 家電製品やOA機器、蛍光灯などの照明器具の近く
- スチール机などの金属製家具の上や近く
- 朝・夕の時間帯や雨天のとき
- ※電波障害などにより誤った電波を受信し、時刻を誤表示する場合は、リセット操作を行い使用する場所を変更してご使用下さい。

標準電波についての詳しい情報は「情報通信研究機構」のホームページ内の「日本標準時グループ」を参照して下さい。

情報通信研究機構 ホームページアドレス <https://jy.nict.go.jp>

自動電波受信機能について

本製品は、日付と時刻を修正するために、毎日、内蔵プログラムにより自動電波受信を行います。電波を受信できない場合、内蔵クォーツの精度で計時し、次の自動受信時間に再び電波受信を行います。

受信の状態について (受信マークの表示例)

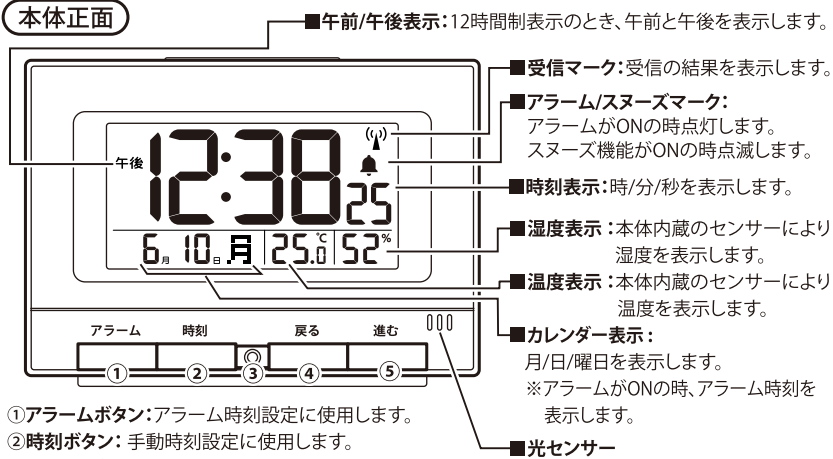
- 点滅中 ■受信中 (電波を探している状態) です。
- 点灯 ■受信に成功して時刻/日付修正を終了しています。
※次の受信開始まで点灯し続けます。
- 消灯 ■受信に失敗して終了しています。
※次の受信開始 (点滅) まで、表示されません。

手動受信について

電波受信が終了 (受信マーク) が点灯、または消灯しているときに**戻るボタン**を3秒以上押し続けると、電波受信を開始します。

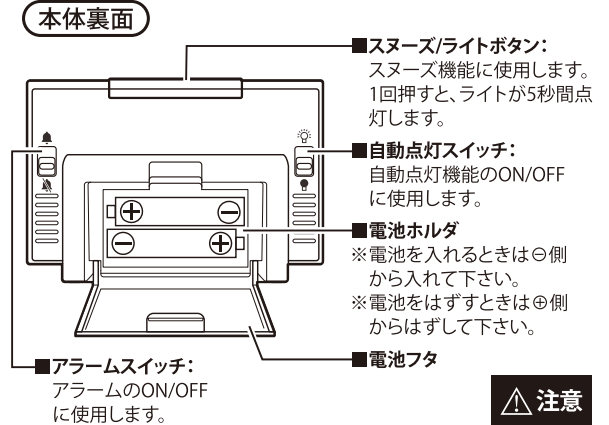
※電波受信中 (受信マーク) 点滅中) に**戻るボタン**を3秒以上押し続けると電波受信を終了します。

本体正面



- ①アラームボタン: アラーム時刻設定に使用します。
- ②時刻ボタン: 手動時刻設定に使用します。
- ③リセットボタン: リセット操作に使用します。
- ④戻るボタン: 設定操作中に1回押すごとに項目を減算します。長押しすると早戻しをします。手動受信と受信停止の時に使用します。
- ⑤進むボタン: 設定操作中に1回押すごとに項目を加算します。長押しすると早送りを行います。12/24時間制表示の切替に使用します。

本体裏面



注意

種類の違う電池、古い電池と新しい電池などを混ぜて使用しないで下さい。電池の破裂や時計の故障の原因になります。

ご使用方法

- ①表示ラベルを剥がして下さい。
※ラベルを剥がす際に、液晶表示が部分的に黒くなる場合がありますが、静電気による一時的な現象です。しばらくそのままにしておくと、元に戻ります。
- ②電池フタを開けて単3形乾電池2個を⊖の表示に合わせて入れ、電池フタを閉じます。
→「ビビビビ」と確認音が鳴った後、画面が表示され、電波の受信を開始します。
※受信中は受信マーク(電波マーク)が点滅します。
※受信には最長12分かかります。
- ③受信の結果を確認する。本書「受信の状態について」を参照して下さい。
- 受信に成功すると、受信マーク(電波マーク)が点灯して自動的に日付と時刻を修正します。
- 受信に失敗すると、受信マーク(電波マーク)は消灯します。日付と時刻は修正されません。

< 表示ラベル >



電波受信ができなかった場合は...

- ①手動で時刻を設定し、朝までそのままにしておく
本書「手動で時刻を設定する」を参照して、現在時刻に合わせて時刻を設定し、一晩そのままにしておきます。
一般的に、夜間は電波状態が良くなるので、一晩そのままにしておくと、受信できる可能性が高くなります。
- ②設置場所を変える／受信をやり直す
本書「電波時計についての 電波を受信しにくい環境」と「手動受信について」を参考に、設置場所を変えて、再度、受信をさせて下さい。
※電波を受信できない場合は、内蔵クォーツの精度で計時します。

12/24時間表示切替

通常時刻表示の時に進むボタンを押すと、12/24時間表示を切り替えることができます。

アラーム時刻の設定

※設定中の点滅は約5秒以内です。この間に操作を何もしないと点滅が終了して通常表示に戻ります。

- ①アラームスイッチをONにするとアラームマーク(電波マーク)が点灯し、カレンダー表示がアラーム設定時刻に切り替わります。
- ②アラームボタンを3秒以上押し続けます。
→「ビビ」と確認音が鳴ってアラーム時刻設定モードに入り、[時]部分が点滅します。
- ③進むボタン、戻るボタンを押して[時]を設定します。
- ④[時]の設定が終了したら、アラームボタンを押します。
→[分]部分が点滅します。
- ⑤進むボタン、戻るボタンを押して[分]を設定します。
- ⑥[分]の設定が終了したら、アラームボタンを押します。
→アラーム設定時刻が表示されて、設定が完了します。
- アラーム時刻は[秒単位]の設定はできません。
- 12時間制表示のとき、[午前]と[午後]を間違えないように注意して下さい。

カレンダー表示



アラーム設定時刻の表示



[時]の設定



[分]の設定



アラームの止め方 / スヌーズ機能

アラームを止めるには3通りの方法があります。

- アラームを完全に止める
●スヌーズ/ライトボタン以外のボタンを押す。
→アラームが鳴り止まり、翌日の設定した時刻になるまで鳴りません。
アラームマーク(電波マーク)は点灯したままです。
※アラームが鳴っている間はアラームマーク(電波マーク)が点滅します。
※アラームマーク(電波マーク)を消灯するには、アラームスイッチをOFFにして下さい。
アラーム機能が解除されます。
- アラームを一旦止め、約5分後に再度アラームを鳴らす(スヌーズ機能)
アラームが鳴っている間にスヌーズ/ライトボタンを押すと、アラームが一旦鳴り止まり、約5分後に再び鳴り出します。
※スヌーズ機能中はアラームマーク(電波マーク)が点滅します。
※スヌーズ機能は8回繰り返すことができます。
※スヌーズ機能中にスヌーズ/ライトボタン以外のボタンを押すと、スヌーズ機能は解除されます。
- アラームを自動的に止める(オートストップ機能)
アラームは鳴りだしてから2分で自動的に止まり、翌日の設定した時刻になるまで鳴りません。
※アラームマーク(電波マーク)は点灯したままです。



ライト機能

スヌーズ/ライトボタンを押すと、ライトが約5秒間点灯します。

自動点灯機能について

自動点灯スイッチをONにすると、明るさを感知する光センサーによって、周囲が暗くなると自動的にライトが点灯します。

※日中や夜間の照明時などでも、周囲の明るさが不足していたり、光センサー部が影になっていると、ライトが点灯する場合があります。

※ライトを自動点灯させない場合は、自動点灯スイッチをOFFにして下さい。

※強い磁気やノイズを発生するものからはなるべく離して設置して下さい。本製品の光センサーと混信し、時計のライトが消灯したり、ちらつきが発生する場合がございます。



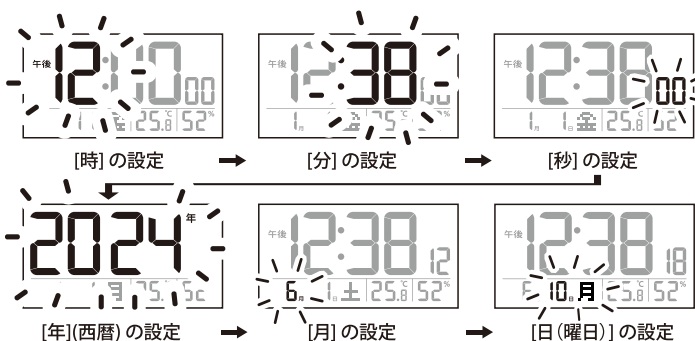
手動で時刻を設定する

注意

- ※電波受信中(受信マーク(電波マーク)の点滅中)に手動による時刻設定を行うと、電波の受信がキャンセルされます。
- ※設定中の点滅は約15秒以内です。この間に操作を何もしないと点滅が終了して通常表示に戻ります。
- ※曜日は[年(西暦)・月・日]を設定すると自動で設定されます。

- ①アラームスイッチをOFFにして、時刻ボタンを3秒以上押し続ける。
→時刻設定モードに入り、[時]が点滅します。
- ②進むボタン、戻るボタンを押して[時]を設定し、時刻ボタンを押す。
- ③時刻ボタンを押すごとに[時]→[分]→[秒]→[年(西暦)]→[月]→[日]→が点滅します。
進むボタン、戻るボタンを押してそれぞれを設定し、時刻ボタンを押して次の設定に進みます。
- ※[秒]は進むボタン、戻るボタンを押すごとに00秒に設定されます。
- ④[日]の設定が終了し時刻ボタンを押すと、設定が完了となります。
→点滅が終了し、設定された時刻・日付が表示されます。

【例】2024年6月10日(月)午後12時38分を設定する場合



※[年・月・日]を合わせないと[曜日]は正しく表示されません。